

Y2-29

卒後2年目看護師と就職先が望む看護職としての基本的姿勢と態度

岡山赤十字病院¹⁾、
岡山赤十字看護専門学校²⁾
○加藤 礼子¹⁾、守安 恵子²⁾、多賀 佐和子²⁾

【研究目的・方法】卒後2年目の卒業生と就業先の管理者を対象に、アンケート調査を実施し、両者の評価の差異を明らかにし、今後の学校教育の内容について考える。

【結果および考察】『看護職員としての基本的姿勢と態度について』では、「看護行為によって患者の生命を脅かす危険性もあることを認識し行動する」という項目で、両者とも高得点であった。患者の人権への配慮および医療安全確保が強化される中で、患者の生命の安全確保は最優先課題である。また、看護基礎教育の中で、医療安全に関する教育を強化し学生の頃から繰り返し考える機会を設けていることも効を奏していると思われる。項目別に算出した平均点を比較し、両者の得点の差が大きいものは、「課題の解決にむけて必要な情報を収集し解決に向けて行動する」等であった。この結果より、現代の若者気質と言われる部分が問題として挙がってくる。『学生時代にもっと学習しておきたかった（もっと教えておいて欲しいと思う）教育・研修について』の質問に対して、卒業生では薬・注射・専門的な看護技術に関するものが上位であった。就職先では社会人としてのマナーやコミュニケーション技術、医療安全についての項目が上位であった。看護実践能力だけでなく1人の社会人として必要な能力を身につけて欲しいと思っていることが伺える。

【まとめ】「看護基礎技術を身につけたい」とする卒業生の思いに対しては、学内での看護技術の演習や認定・臨床での実習指導を強化し、「接遇面を身につけさせて欲しい」とする就職先の思いに対しては、日々の学校生活の中での指導を強化していきたい。

Y2-30

ICLS普及委員会の活動と課題 第2報

名古屋第一赤十字病院
○安藤 俊子、松本 博子、須永 康代、
桑原 典子

【はじめに】BLS、ICLS教育は、質の高い技術を身につけること、不測の急変に対応できることが目的であるため、教育を継続することが必要である。当院では平成17年度から看護部内にACLS普及プロジェクト（現ICLS普及委員会）を立ち上げ、本学会で活動報告をした。ICLS普及委員会は今年で5年目を迎え、今回第2報として、現在の活動状況を報告する。

【活動内容】ICLS普及委員会の活動内容は次の5点である。1. 看護師入職者のオリエンテーションでの救急救命講習の企画・実践 2. 看護師入職者へのBLS実技指導の企画・実践 3. 全看護師対象に看護単位ごとのBLS実技演習の企画・推進 4. 看護師対象のICLS指導、受講推進、インストラクター教育 5. 研修医対象のICLS指導

【活動の実際】昨年度は看護師入職者オリエンテーションで、82名を対象に講義と2次救命処置を含めたデモンストレーション、救急カートの説明を行った。また8月に中途採用者も含め92名を4日間に分け、講義とBLS実践指導、評価を行った。9月からは26の各看護単位の指導者に講習会を開き、全看護師680名に対してBLS実技演習を行った。ICLSは日本救急医学会認定コースで開催し、年間約50名の看護師が受講している。

【今後の課題】ACLS普及プロジェクトとして発足時は、各看護単位の指導者の育成と全看護師への指導が目標であった。現在BLS教育は入職時から開始し、全看護師対象に毎年継続して実施しており、5年前と比較して確実に充実した。しかし看護師は、急変時のみに対応するだけでなく、緊急コールで蘇生チームが駆けつけた後の2次救命処置においても患者に継続的に関わっていかなくてはならない。今後ICLS教育をより充実させていくこと、そのためにもICLSインストラクターを育てていくことが課題である。